

鳥島の名付け親は万次郎

文久三年三月十七日(1863年5月14日)、幕府の命により壹番丸(いちばんまる)の船長として万次郎は乗組員の他、父島の役人二人とともに同島を出港し小笠原近海で捕鯨を行っている。

万次郎はこの捕鯨航海で面白いことをしていた。それは、捕鯨の途中、昔漂流した鳥島に立ち寄り上陸していることである。二十二年前、五ヶ月近くを過ごした無人島である。おそらく島はその当時のままの姿であったろう。そこで万次郎は「大日本属島鳥島」という標を立てるのが目的であった。文久三年三月二十四日のことである。これで、役人二人が船に乗った意味も納得できる。鳥島の地形を知っている万次郎はまさにこの適任者であった。無人島に漂流した者が、再びその島を訪れることは珍しいことと思われる。

「大日本属島鳥島」という立て札を立てたのは、万次郎が「鳥島」と命名したためという説がある。

父島より本土に近い鳥島に「大日本属島」とする必要はなく「鳥島命名」説の裏づけとなる。

(中濱万次郎:中濱 博著より抜粋)

子どもたちの文通による交流

万次郎の故郷、中浜にある中浜小学校の子どもたち(5・6年生:20名)とフェアヘーブンの近郊にあるシピカン小学校の子どもたち(18名)が今年の春から文通を行っています。

きっかけは米国姉妹都市委員会のメンバーでシピカン小学校の教師をされているデビー・アルメイダさんが自分の受け持っている生徒たちに文通をさせてあげたいということで同委員会のアヤ子・ルーニーさんを通して文通相手となって頂ける土佐清水市の小学校を探して欲しいという依頼があり、万次郎の出身地である中浜小学校に打診し文通が始まりました。子どもたちは、自分の好きな食べ物やスポーツや休日の過ごし方などについてお互いに手紙のやりとりを交わし友好を深めています。手紙の英文訳などについてはクリストファー・トンキンさん(市ALT)にご協力を頂き、当面は郵送料を当協会が負担しながら引き続き文通を重ねていくことになっております。

英語でしゃべるDAY・国際カフェ開催

7月17日、土佐清水市養老のあしずり港で海の日記念イベント会場(海の駅あしずり2階)において『英語でしゃべるDAY・国際カフェ』が開催されました。店内は、ウェルカムジョン万の会(代表:田中 裕美氏)のメンバーの皆さんによるハンバーガーやクッキーなど欧米料理・ドリンクが販売されたほか、市内外のALTなど(アーサー・デービスさんを含む4名)が店員となり、全て英語で注文をとるなど参加者は気軽に英会話を楽しんでいる様子でした。



姉妹都市スポーツ交流



スポーツを通じて姉妹都市の交流を図り親睦を深めることを目的に、土佐清水市と豊見城市の少年野球チームは毎年春と夏に相互に訪問を行っています。今年の夏も豊見城市から少年野球訪問団(団長: 赤嶺要善助役他36名)が本市を訪れ、『第18回郵YOU杯少年野球大会』に参加しました。

8月12日に本市に到着した訪問団は歓迎交流会に出席し、翌13日に竜串桜浜で本市の子供達と一緒に遊泳を楽しんだ後、あしずり祭り会場にて見事なエイサー踊りを披露して頂きました。祭りのフィナーレを飾る花火大会を見た子供達は『清水の花火はすごい!』と驚いた様子でした。

14日に開催された『第18回郵YOU杯少年野球大会』は、豊見城市の2チームと本市の4チーム計6チームで熱戦が繰り広げられた結果、豊見城市の豊見城フレンズが優勝を飾りました。

第18回郵YOU杯少年野球大会試合結果

Aゾーン(市営グランド川側)

チーム名	成績
翁長	2勝0敗
下ノ加江ファイターズ	1勝1敗
三崎ファイターズ	0勝2敗

翁長が決勝に進む

試合結果

		スコア	
第1試合	翁長	11-1	三崎ファイターズ
第2試合	三崎ファイターズ	0-9	下ノ加江ファイターズ
第3試合	下ノ加江ファイターズ	1-6	翁長

Bゾーン(市営グランド山側)

チーム名	成績
豊見城フレンズ	2勝0敗
清水清小ナイン	1勝1敗
窪津ホエールズ	0勝2敗

豊見城フレンズが決勝に進む

試合結果

		スコア	
第1試合	清水清小ナイン	1-0	窪津ホエールズ
第2試合	清水清小ナイン	1-4	豊見城フレンズ
第3試合	窪津ホエールズ	4-13	豊見城フレンズ

A・Bゾーンの勝ち点、得失点差により下ノ加江ファイターズが3位となる

決勝戦

豊見城フレンズ	0	0	2	0	1	1	0	計	4
翁長	0	0	0	2	0	0	1		3

優勝	豊見城フレンズ
準優勝	翁長
3位	下ノ加江ファイターズ



第10回ジョン万祭り参加ツアーのご報告

10月1日、姉妹都市米国マサチューセッツ州フェアヘーブンにおいて第10回ジョン万祭りが開催され、西村市長をはじめとする20名の訪問団が参加しました。今回のジョン万祭りでは、当協会が初めてブースを受け持ち、うどん販売を行うとともに、参加者の方々が書道、折り紙、日本伝統品の販売など日本文化の紹介を行いました。祭りの最後には地元の方々とともにあしずり踊りを披露し、今回で10回目の節目となるジョン万祭りを盛り上げました。



翌2日には、ホイットフィールド船長の墓石に西村市長とジェラルド・ルーニー委員長の両氏が献花を行ったほかユニテリアン教会やストーンスクールといった万次郎縁の各所を訪れました。また、同日晩にはボストン領事館副総領事ほか関係者や地元住民の方々約200名が出席しレセプションが行われました。本市のウェルカムジョン万の会代表、田中 裕美さんが長年の草の根の交流活動に対して、フェアヘーブン、ニューベッドフォード両姉妹都市より表彰を受け、特にフェアヘーブンでは10月2日を『田中裕美さんの日』とすることが報告され、会場の参加者より大きな拍手を受けました。今回初めて参加した方も心温まる歓迎を受け、友好の絆を深め姉妹都市交流を楽しむことができたようでありました。訪問団一行は3日にニューヨークを訪れた後、5日に帰国。翌6日夕方に帰清しツアーは無事終了しました。



沖縄ジョン万次郎会主催による『ジョン万次郎講演会』開催

9月25日、豊見城市立中央公民館大ホールにおいて、沖縄ジョン万次郎会(会長:大城 盛昌氏)の主催で『ジョン万次郎講演会』が開催されました。講師として土佐清水市より招聘された畑山 昌弘氏(元教育長)が、日本の激動期の中で日米交流の架け橋となり文明開化に貢献したジョン万次郎の波瀾万丈の生涯やどんな苦難の状況下でも決してあきらめない不屈の精神について会場に集まった豊見城市民に熱く語りました。

講演会終了後には、『中濱万次郎』(中濱 博氏著)読書感想文コンクール表彰式が行われ、最優秀賞をはじめとする各賞を受賞した豊見城市内の中学生5名が表彰を受けました。



”その時歴史が動いた”放映のご案内



NHK総合テレビの歴史番組『その時歴史が動いた』で万次郎が日本の激動期の中で果たした偉大な功績に光をあて放映されることとなりました。

会員の皆様、ぜひご覧下さい。

日 時:平成17年11月2日(水)

21:15~21:58

テーマ:『漂流民が開いた鎖国の扉(仮)』

~ジョン万次郎・命がけの訴え~